国立国会図書館　タイトル『儒林墨宝』 請求記号 亥二-60
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『儒林墨宝』　請求記号 亥二-60

ガラス使用

儒林墨寶 二

朱舜水書

時日易遷轉瞬已逾半年

有人自如戶來必只

古意起居詢告迪吉則喜

似乎來呂如隔如然半年

不通一札非徒之非疎節

国立国会図書館　タイトル『儒林墨宝』　請求記号 亥二-60

ガラス使用

迂懶又將何務以自釋
耶其中々故畧二端
台臺雅甚愛我恐亦未
能詳悉如其一僕自二月
初九患腫毒甫愈即眩
暈眩暈未痊復病耳
呼耳鳴未已舊毒復癢
今月二十一日方爾平服轉

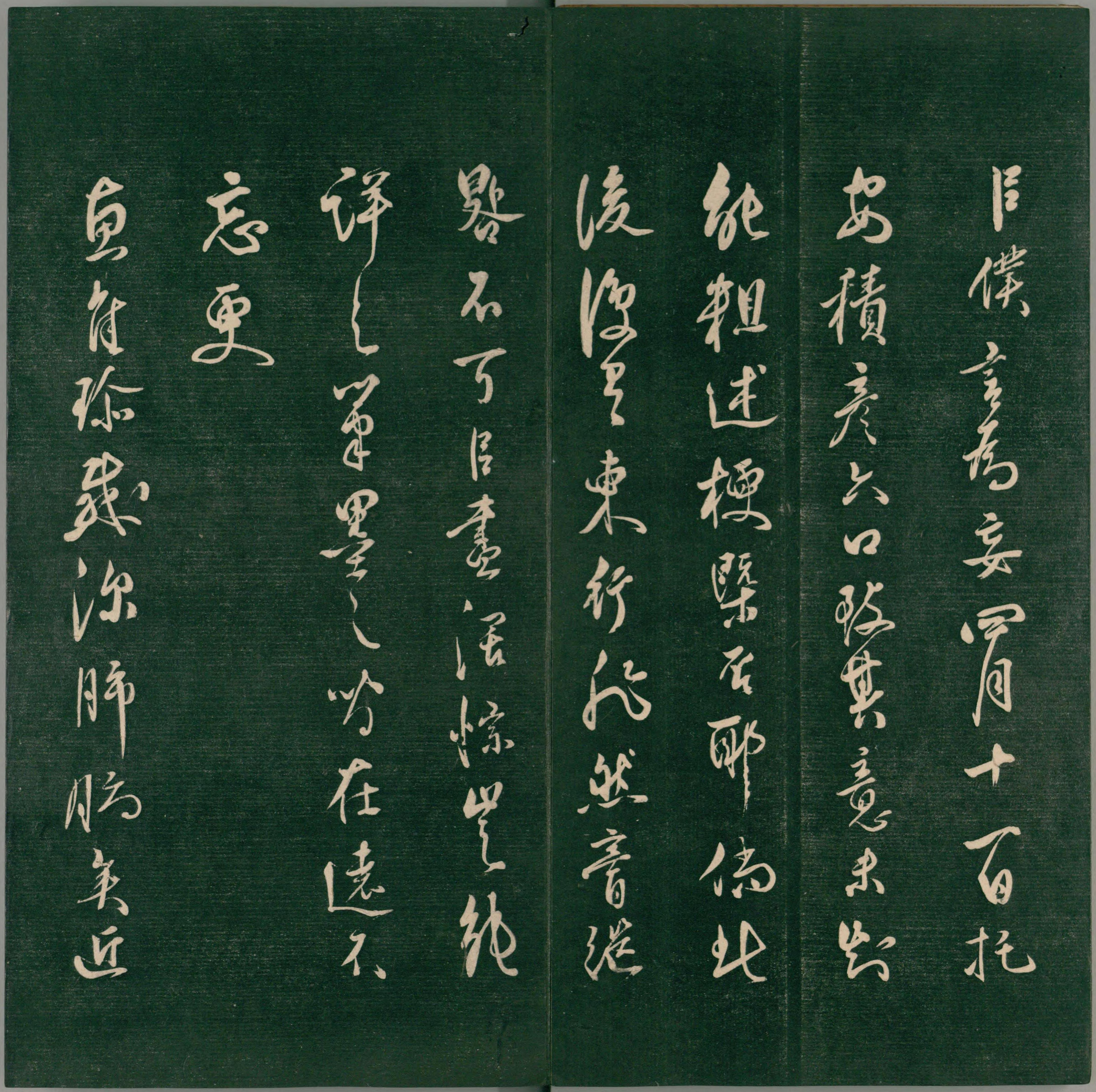
国立国会図書館　タイトル『儒林墨宝』 請求記号 亥二-60
ガラス使用

屢多病自心亦自厭倦其
二謬承過譽是當今
捨我之說此事關係重
大義之似涉矯情已然
披肝瀝膽之素任之則
遭謀議則是出位謀政
之嫌此時
上公力毀淫祠僕遭蜚語

国立国会図書館　タイトル『儒林墨宝』 請求記号 亥二-60
ガラス使用

騰謗何敢輕易發一言焉
仰人作語柄如非俟正之
定而後復之於寧遲緩
數月負傲之譽不肯一字
爲人牙後且古人之書
足經年而復者足如
年而後復者 古意好
古博通无能物之无不至

国立国会図書館　タイトル『儒林墨宝』 請求記号 亥二-60
ガラス使用



来溽暑酷烈惟祈
順時節宣僕舊疾如故
恐興北身相為終始如
遇辱
軫念銘戢無盡神
短楮意興長縈慢
策在丙午夏六月
二十有七日

国立国会図書館　タイトル『儒林墨宝』 請求記号 亥二-60
ガラス使用

行生明舞水
生來之殊頓首拜
大國手清泉三折兄翁
別號仙菴老雅愛

人見懋齋書

視箴曰心兮

国立国会図書館　タイトル『儒林墨宝』 請求記号 亥二-60
ガラス使用

本虚應物無迹操之有要視為之則斂交於前其中

国立国会図書館　タイトル『儒林墨宝』　請求記号 亥二-60

ガラス使用

則遷制之於
外呂安其內
克己復禮久
而誠矣

国立国会図書館　タイトル『儒林墨宝』 請求記号 亥二-60
ガラス使用

庚申重陽日悉齋書

安積澹泊書

瑞龍道中口號呈

滄浪大兄乞和

嶙峋夾路萬株松豈料

與

君尋瑞龍落月疎星天

欲曉一聲何處寺樓

国立国会図書館　タイトル『儒林墨宝』 請求記号 亥二-60

ガラス使用

鐘

滿岸人家半帶煙海東
晨旭五雲鮮莫嫌野店
茅柴酒恰勝新豐斗
十千

積雨新晴路不埃短亭
長堰幾禁囘吳江風冷
楓將落灞岸霸疎菊
欲開鳧雁飛鳴蒲柳
渚漁樵來往水雲深

国立国会図書館　タイトル『儒林墨宝』　請求記号 亥二-60
ガラス使用

山川處處供詩料為
酌村醪勸一盃
遥影晴川碧書空雁
幾行遥峯含雨色落
日滿秋光遠寺疎鐘動
孤村牧笛長不堪談往
事檜栢歷風霜

老圃安覺拜

佐二十竹書

国立国会図書館　タイトル『儒林墨宝』 請求記号 亥二-60
ガラス使用

室生山天狗

和州有室生山山木蓊欝水石明媚殆勝地也相傳山有天狗若有恃才自高者過山下則天狗必彈其鼻甚至挽裂支體以掛樹枝一僧頗有膽氣自負其學嘗過山下獨語曰天狗公天狗公勿彈我鼻焉我固非自高者也天狗在樹上大笑曰汝其勿憂焉我欲得絶世偉人以彈其鼻焉耳汝等碌碌豈足勞我指哉言畢不見今焉少解性理者自以為程朱復出少屬文者自以為韓柳復出少作詩者自以為李杜復出少学兵者自以為孫吳復出凡如此

国立国会図書館　タイトル『儒林墨宝』　請求記号 亥二-60
ガラス使用

之類不可縷數若過室生山則不為天狗
所笑者幾希

佐々宗淳

大串蘭齋書

伏荷

清教多謝多謝
前聞
今愛入宮便欲
專价賀之故阻

国立国会図書館　タイトル『儒林墨宝』　請求記号 亥二-60
ガラス使用

事故却枉
垂示深負罪責
就承
雨後佳景彼此一
致欲應
佳招又如涅滑何
西鄰翁亦偶遠
適而今而歸難

国立国会図書館　タイトル『儒林墨宝』 請求記号 亥二-60
ガラス使用

重促之
足下脚健能来
語否醇味此亦
所少也只慰
獨居之寂寥
復石井大兄 串善
井上挹翠書

国立国会図書館　タイトル『儒林墨宝』 請求記号 亥二-60
ガラス使用

連環

秋風濂夕乱雲流、
火沈光夜景迷、趣
熟時宜聽雨、涼況
引斬新秋

井上士桐

鵜飼錬齋書

謹和

国立国会図書館　タイトル『儒林墨宝』 請求記号 亥二-60
ガラス使用

小川雅伯見寄

世路苦形役弄花
欲養神窺開朝冒
雨照睡夜燒銀忽
得瓊瑤贈更期樽
酒親索居今已久
努力莫拋春

鶴飼真昌拜

国立国会図書館　タイトル『儒林墨宝』 請求記号 亥二-60
ガラス使用

嚴塾圖書

森儼塾書

謹賦小詩奉呈
太醫和氣姓半井氏驢庵先生 冊鼎下

僕本茅屋小子嘗雖列于
先生之門下未得拜東武之
醫院遠望日久渇仰年邁況又僕父
親浴
古先生之末流勵業以得終身是以
世荷恩厚矣懷德也深矣方今
附

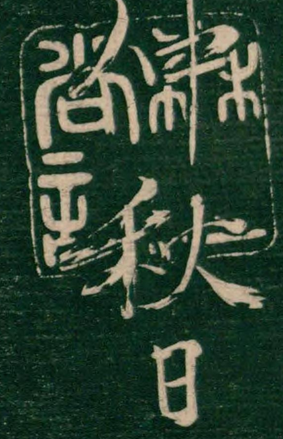
国立国会図書館　タイトル『儒林墨宝』 請求記号 亥二-60
ガラス使用

天使之驥尾欲展秋霄之鴻翼幸遇
明時仰開徼運瞻視
丰容我歡無疆不獲已而欽賦一律
以旌寸衷伏希
昭亮

軒轅遺業遠傳来
和氣道流尤偉哉濟世良工
扶國助救生妙術挽春回
風清橘井醴泉涌雨霽杏
林瑞景閑往日曽憂

屋如今堪喜上仙臺

庚申歲秋日



三宅觀瀾書

題文房四賢傳後

以器作傳不作則已作則不免出戲如韓愈叙毛穎者是而附象引類務馳奇巧以迎人喜笑比之漢賦有規諷者抑亦下矣況余之作哉因感賦古篇十二韻

国立国会図書館　タイトル『儒林墨宝』　請求記号 亥二-60

ガラス使用

君不見古有禹稷契夔者治洚驅
猛足胼胝繼之播種與勞徠禮樂
摩成神人宜又不見古有丙魏房
杜者赫赫盛名竹帛垂却從史
氏求相業跡無可見德可思二者
璧猶四時更序行功收氏不知雜
霸純王且東閣來問欒調道何
其經國須與若人俱治楮要取此
器隨天生百物寓至理把玩半日
有餘師几案廊廟均為政欲割
社肉分鄉耆漢儒逸氣空凌雲詞
賦豈足存諷規益信大雅趨凋喪

国立国会図書館　タイトル『儒林墨宝』 請求記号 亥二-60
ガラス使用

俳優語成足盛眉莫嗔文士文為
戲它日平淮記者誰

觀瀾稿

文為戲用樂度予

栗山潛鋒書

得語字

流水無端漾柳絮
春恨萬尺豈耐語
驛路縹渺樹如雲

国立国会図書館　タイトル『儒林墨宝』　請求記号 亥二-60
ガラス使用

想見匹馬洲中過
栗憲拜

中村篁溪書

花下小飲餞
竹軒酒大兄之江府
得燕字

園桃團絳霞庭櫻
下銀霰稱牀觴其

国立国会図書館　タイトル『儒林墨宝』 請求記号 亥二-60
ガラス使用

間宛如畫中見不
忍別友人為折
一枝餞枝上黃鸎
兒底意盡情囀嚶〻
未知止似羨定巢
燕何當將雛去日
暖遶春殿江雲回
首處此情遂不變

国立国会図書館　タイトル『儒林墨宝』 請求記号 亥二-60
ガラス使用

飛花黏客衣猶自
寄繾綣

村顧言拜

德田汶江書

昔讀淮南賦風慕桂樹函思之黃綠紫綠
當作匹儔不意青雲鑾鄉此淹留出門
和塵陌幽趣無處求偶得一株桂栽賞
小庭秋青陰風徐度白露香暗浮纔
是吾所好湯擬小山遊然唯一時興不
復永久謀幸今歸以歡欲持翁故立又

国立国会図書館　タイトル『儒林墨宝』　請求記号 亥二-60
ガラス使用

烈色光早焦枯灶中投不若贈回志齋
好書有脩請君苦皓書相對
思風流　太贈

賀君　田齋拓

酒泉竹軒書

斗陽元光遠採遷庶
事志孝孫先展
賀崖躍爭長雪嶽
高耀日風林旅向

国立国会図書館　タイトル『儒林墨宝』 請求記号 亥二-60
ガラス使用

陽子春賞今至新
曲照詩物
永三木子葉見韻
小池桃洞書

得客字

有花有客愛此夕落花
惜別黏祖席明朝花下

国立国会図書館　タイトル『儒林墨宝』 請求記号 亥二-60
ガラス使用

若相思縱使有花奈無客

小池友賢拜

安藤省庵書

謝素軒惠庚琴

我少不嗜酒老去知其趣荷君贈庚琴醉後散不措歟

国立国会図書館　タイトル『儒林墨宝』 請求記号 亥二-60

ガラス使用

曲學萬音無異邯鄲步人
笑吾毫矣自榮送旦萬委
懷在琴書淵明我所慕榮
公老帶索無喜復無懼人
命誰至百駒陰雷不駐歌
羅酒為務萬事任所遇

安東方約竹

国立国会図書館　タイトル『儒林墨宝』 請求記号 亥二-60
ガラス使用

朱霖水之悔化於　我也初有深意焉
既而知明宋蕩極不可恢復況乎西知
已於海東文物彬彬樂土得所不似然矣之
亂雖遂決定不返也霖水善有儒行而
無儒名是則可為真儒宜乎西山源公
推尊之待以師禮也今親月堂君而勒
筆蹟精神躍躍愛超凡品殆如親睹
其半宋又無所諾矣而名概掩霖水所採流

国立国会図書館　タイトル『儒林墨宝』 請求記号 亥二-60
ガラス使用

右并心存雲心畫亦可以為墨寶矣茲
寘法第二帖

天保十五年晩春未畫之日

七十二蘇埋手題

此帖主壽以翁而附刻
翁所有未向雙二帖告
諸侍傳家藏之如瀛洲
以云我擇之自好者并藏

国立国会図書館　タイトル『儒林墨宝』 請求記号 亥二-60
ガラス使用

老安無遺漏也爲陰徹
瀛枝化無東東無所
葉お至孤〻寧乎
保原清和月影於翠
筠お屋 臣朱

天保十五年歲次甲辰
炑八月翠鎖書屋勒成

望雲撰鐫

国立国会図書館　タイトル『儒林墨宝』 請求記号 亥二-60
ガラス使用

亥二
60

国立国会図書館　タイトル『儒林墨宝』 請求記号 亥二-60

ガラス使用

国立国会図書館　　タイトル『儒林墨宝』　請求記号 亥二-60

ガラス使用